

海運の重要性を学校教育の場で
～福山市立常石小学校社会科授業に協力～

日本船主協会は、学校教育において、我が国の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業を取り上げていただくよう、海事・港湾都市を中心に要請活動を展開しております。

その活動の一環として、昨年引き続き、地元の会員会社 2 社の協力を得て、12 月 8 日に広島県の福山市立常石小学校の社会科の授業にゲストティーチャーを派遣いたしました。同校ではこれに先立ち社会科授業の一環として常石造船での工場見学が行われており、本授業は、そこから発展させて、海運の現場で働いている人の生の声を聞くことでより深く海運に興味を持っていただくことを目的としております。

同校 5 年生の児童 21 名は社会科教科書の貿易に関するデータ等から、「私たちの暮らしは輸出入によって支えられている」「輸入品で物をつくって、それを輸出している」などの気づきや「輸出入できなくなったら私たちの生活はどうなるのか」「なぜ同じものを違う国から輸入しているのか」などの疑問を夫々発表しました。その後、ゲストティーチャーに対し船や船員に関する質問を行いました。

最後に児童から「船員の仕事は海の観察だけかと思っていたが、安全に気を付けたり、エンジンをチェックするなどたくさんの仕事をしていることがわかって勉強になった」「船の知らないことをたくさん知ることができてよかった」などの感想が寄せられ、特に船員の生活や仕事について、強い興味を持った様子を示しておりました。

当協会では、今後も我が国の暮らしと産業を支える海事産業を広く知っていただくための活動を展開してまいります。



授業の様子（説明する児童など）